





200

4

1

1

卷之三



天國の酒を飲む  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ  
おとやかな歌を歌ふ



此とあ爲と云ひて、此と大仰場

一通おまちおまつ難波に在りて、<sup>下</sup>此と

此の御事、<sup>内</sup>此とおまかせを

あらゆる事と有りて、

大が物おまかせを

と申す事、<sup>内</sup>此と

代の御事のむとを、<sup>内</sup>此と

此とおまかせをあへて、<sup>内</sup>此と

おまかせをあへて、<sup>内</sup>此と

此とあらゆる事の、<sup>内</sup>此と

此とあらゆる事の、<sup>内</sup>此と

此とあらゆる事の、<sup>内</sup>此と

天子之印

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九

大其才，其志也。故能成其事，而得其利。此之謂也。

日一  
月二  
白三  
山四  
水五  
土六  
火七  
金八  
木九  
石十

卷之三

卷之三

早  
那  
也  
是  
此

大德  
中  
經  
歷  
年  
來  
之  
一

不今復舊小之大也





と、おひがひあさみの、  
丹波守成

の、たうの、見う博と、ほりう

かくう、かくう、かくう、かくう、

月が見  
る事の事

入る事の事

見ゆる事の事



卷之三

三

卷之三

三

うらわ  
めぐらす  
都へ歸る

右之本者觀世太夫章句古木今版行畢

正徳六丙申歲既生

示來荏苒數十年。二星霜。ニ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ  
シモ印刷ニ附セサハ之ヲ出ニ云三スル能ハサルヲ悲ミ今般  
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓下云

明治十五年九月八日出板御届 定價貳錢

同 年十一月

刻成發兌

出版人

檜

常

介

上京第三十組 三条通寺町西入  
丁子屋町三十五番地

